

# ハスモンヨトウ情報第2号（キャベツ、ハクサイ）

令和2年9月16日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病虫害防除室

## フェロモントラップ誘殺数が一部地域で急増！ ほ場での発生状況に注意しましょう！

### 1 発生状況

(1) フェロモントラップにおける誘殺数は、8月下旬から9月上旬にかけて長久手市、田原市、稲沢市などで急激に増加しました（図1）。その他の地点ではおおむね平年並に推移しています。

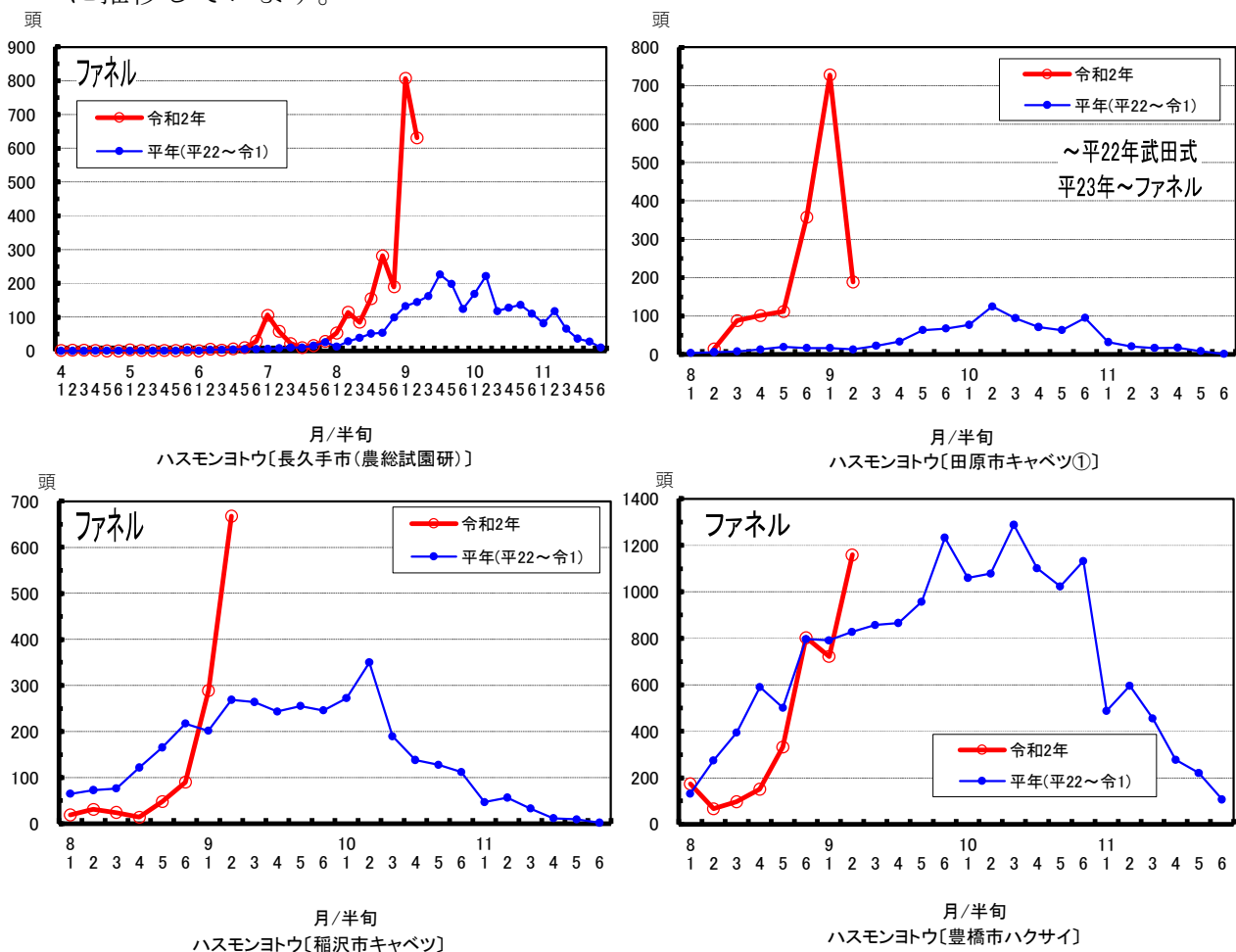


図1 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

(2) 9月上旬の巡回調査において、キャベツほ場における寄生株率は0.25%(平年0.26%、前年0.11%)、発生ほ場率は15.0%(平年12.0%、前年5.6%)で、ともに過去4番目に高い状況です。発生の多いほ場もあるため、注意が必要です。

### 2 防除対策

(1) ハスモンヨトウは残暑が厳しく降雨の少ない年に多発する傾向があります。名古屋地方气象台9月10日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水

量はほぼ平年並と見込まれており、本種の発生に好適な状況が続くため、ほ場での発生状況に注意しましょう。

- (2) 中齢以降の幼虫（図2）は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期（図3）に防除しましょう。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう（表1）。
- (4) ダイズほ場で白変葉が目立つ場合は、7月31日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考に直ちに防除しましょう。



図2 ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫



図3 分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫

表1 ハスモンヨトウの主な防除薬剤

作物名	農薬の名称	使用時期	希釈 倍数	使用 方法	使用 回数	系統	IRAC コード
キャベツ	プレオフロアブル	収穫7日前 まで	1000倍	散布	2回以内	プロペニルオキシ フェニル	UN
	マッチ乳剤	収穫7日前 まで	3000倍	散布	3回以内	ベンゾイル尿素 (IGR脱皮阻害)	15
キャベツ はくさい	グレーシア乳剤	収穫7日前 まで	2000～ 3000倍	散布	2回以内	イソオキサゾリン	30
	アニキ乳剤	収穫3日前 まで	1000～ 2000倍	散布	3回以内	マクロライド	6
	アクセルフロアブル	収穫前日 まで	1000～ 2000倍	散布	3回以内	その他	22B
	ディアナSC	収穫前日 まで	2500～ 5000倍	散布	2回以内	スピノシン	5
	プレバソンフロアブル5	収穫前日 まで	2000倍	散布	3回以内	ジアミド	28

IRAC コードは殺虫剤の作用機構による分類を示す。

IRAC コードの詳細は、[http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism\\_irac02.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab0/pdf/2020/mechanism_irac02.pdf) を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

### 3 その他

ハスモンヨトウと同時にシロイチモジヨトウやオオタバコガが発生している場合があります。どの害虫が発生しているかよく観察し、適用のある農薬で防除しましょう。